

第2回生活日本語ボランティア研修会



▲日本語研修会

昨年、12月18日(土)・19日(日)の2日間に亘り熊本県国際協会と当事業団の共催による「第2回生活日本語ボランティア研修会」を開催しました。現在ボランティアとして活動されている方や興味のある方など延べ約160名が参加し、在住外国人の現状や今後必要とされる支援、日本語を通した支援活動を行っている各団体の事例報告等熱心に耳を傾けていました。

1日目のプログラムは、行政書士の杉本脩一先生による「熊本の現状と課題」について、在住外国人の統計資料等に基づき現状の説明、また、入管法についてのお話がありました。午後からは、在住外国人から見た熊本をテーマにパネルディスカッションを行いました。中国の帰国者の立場として付海(フウ・ハイ)さん、外国人就労者の立場として松井ランディさん、留学

生の立場としてジョシボア・アイマンさん、そして外国人配偶者の立場としてアルバ・エデン・ピンさんにそれぞれ日本、熊本をどのように思っているのか率直な感想をお話いただきました。続いて、在住外国人のサポートをしている団体の活動事例紹介が行われました。実際の事例を聞くことにより、在住外国人を取り巻く環境がどのようなものなのか、より身近な問題として、認識することができたのではないのでしょうか？

2日目のプログラムは、NTT桜町ビル1F多目的スペースに場所を変え、法政大学キャリアデザイン学部教授山田泉先生に「多文化共生社会のコミュニケーション」をテーマに講演いただきました。(以下講演内容抜粋)



▲パネルディスカッション

多文化共生社会のコミュニケーション



▲法政大学キャリアデザイン学部教授山田泉先生

「多様な文化を受け入れることによって人々の生活は豊かになる。」これは地域が国際化を促進する大きな理由です。また、現実問題として、少子高齢化にある日本が経済的成長や安定した消費を維持するためには、外国人単純労働者の受け入れを検討する必要があると、外相の諮問機関である海外交流審議会が、昨年10月に答申しています。まさに、地域においても多文化共生社会の構築について、今こそ行政・市民が在住外国人と連携を図り、教育、公共サービスなど様々な角度から考え、話し合い、「誰もが住みやすい街づくり」を進めていかなければならない時なのです。

第2回生活日本語ボランティア研修会では、生活言語としての日本語や多文化社会におけるコミュニケーションについて、法政大学キャリアデザイン学部の山田泉教授に、ご講演をいただきました。山田教授は、これまで中国大連での日本語教師を経験、帰国後中国帰国者定着センターでの勤務、(財)とよなか交際交流協会での子どもメイト活動や川崎市識字学級研究開発委員会の委員長など、地域における多文化共生支援促進や外国にルーツを持つ子どもたちへの日本教育に長く携わってこられました。

地域で生活する外国人(以下、外国人と記述)にとって重要なことに「生きるための日本語」があります。特に震災や火災、事故や病気など緊急時の日本語の習得は重要です。さらに、O157、ゴミ出し日などの健康や

暮らしの情報弱者になりやすい外国人に対する地域の日本語教室や地域市民とのふれあいが日常実施されることが望まれます。この中で、外国人がとまどうことに、「学習言語としての日本語」と「生活言語としての日本語」の違いがあります。例えば、「本日、電車は全線不通です。」という表現を、「今日、電車は動いていません。」など“やさしい”日本語に言い換えることで理解しやすくなるのです。

教育分野でも算数で「直線AとBは等しい」など、生活の場ではあまり使用されない表現がとまどいを生み出しています。(生活の場では、“等しい”ではなく、“同じ”と表現されます。)このことは、外国人の子どもの進学問題や美容師、自動車整備士など国家試験を受ける際に大きな障壁となっています。日本語に加え、多言語や多文化での進路ガイダンスの導入が必要となります。また、日本の学校文化には集団主義的な傾向があり、そこに異なる文化を持つ子どもが入った場合、いじめや差別が発生する可能性があります。さらに、日本語があまり上手に話せない親に対するバッシングなど家庭内問題に発展するケースもあります。

現在、大阪、川崎など外国人登録者数が多い地域では、多文化共生社会を構築していくために外国人のための日本語教室がボランティアの人々により盛んに行われています。この活動は、教育や社会制度のすべての人たちへの保証を確実にするものであり、行政側における積極的な認識、そして市民、外国人との連携が必要となります。この中で、外国人も市民もともに学ぶ主体であって、その学びは、「地域に生きる地域社会の創造」のための学びであり、多文化共生社会につながっていくことです。例えば、人間関係形成の場として、一方的な日本語教室ではなく、外国人による料理教室開催等、交流を通して、お互いの文化を学び、コミュニケーションを深めるなど色々な可能性があるでしょう。

最後は、熊本県立大学文学部日本語日本文学科教授馬場良二先生をコーディネーターに「今後の生活日本語ボランティア、団体間の地域ネットワークと連携」について、各団体と参加者間で意見交換を行いました。

※参加団体: 華友会、熊本国際化センター、黒髪小学校、コムスタカ〜外国人と共に生きる会〜、同歩会、日本語研究会あさ(ASA)、YMCA、YWCA、(財)熊本市国際交流振興事業団



▲意見交換会